

NIPPON KANZAI CENTER CO.,LTD.

company profile



私たちは

水と空気と環境を

クリエイトする企業集団として

世界の人々になくてはならない存在でありたい

Top Message

日本の高度経済成長が加速しつつあった1967年、管工機材の世界では複雑な流通経路と古い商慣習が幅を利かせていました。そんな業界の常識に疑問を抱き、「建築資材メーカーと施工業者とをつなぐ商社は1社でいい」という発想から、日本管材センターは生まれました。以来、作る側と使う側とをシンプルかつ便利に“つなぐこと”を職務に、邁進してまいりました。

創業から半世紀を経た今、私たちの仕事は準インフラである、とあらためて認識しています。街の大動脈である上下水道、電気通信などのインフラも、最終的な生活シーンまでにはつながっていません。インフラ設備から建物の専有部分を経て、エンドユーザーの使う場所までをつなぐ、管材、電材、建材が必要になります。まさしく、そのパイプ役が私たちの役割であり、世界の人々になくてはならない存在として、「水と空気と環境をクリエイトする企業集団」であることを企業理念に掲げています。

2016年4月には、現場と建築資材とをより良く、より早く結ぶための「新木場配送センターDepot」を新設し、2017年には、世界初の自動加工ラインを導入した「TECH LAB常総」を本格稼働させました。また、環境への取り組み、社会奉仕活動、社内外の人材教育にも、よりいっそうの力を入れております。

日本管材センターはこれからもお客様と社会のために、モノと仕事、人と人、時代と時代とをつなぐ使命を追求してまいります。

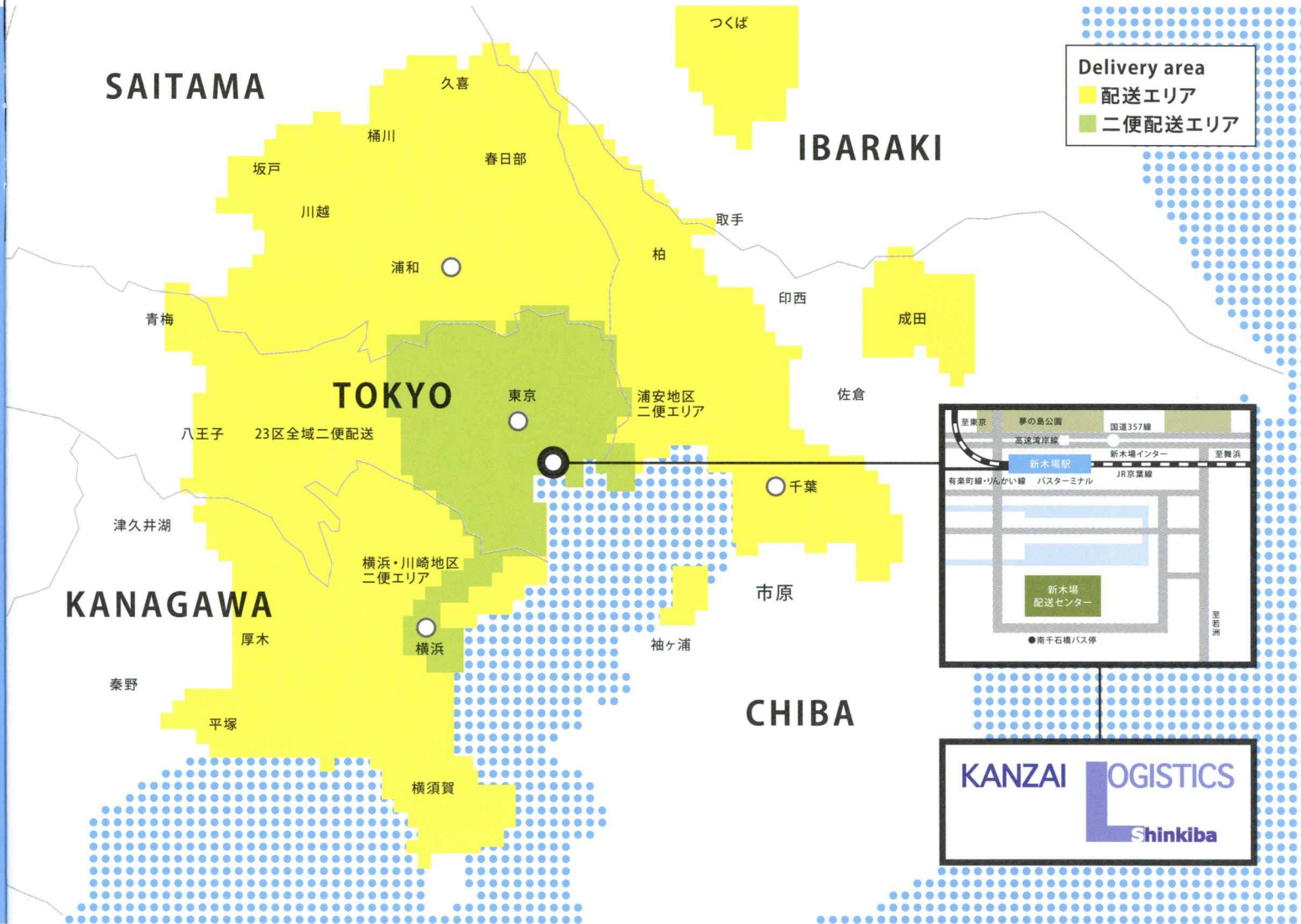
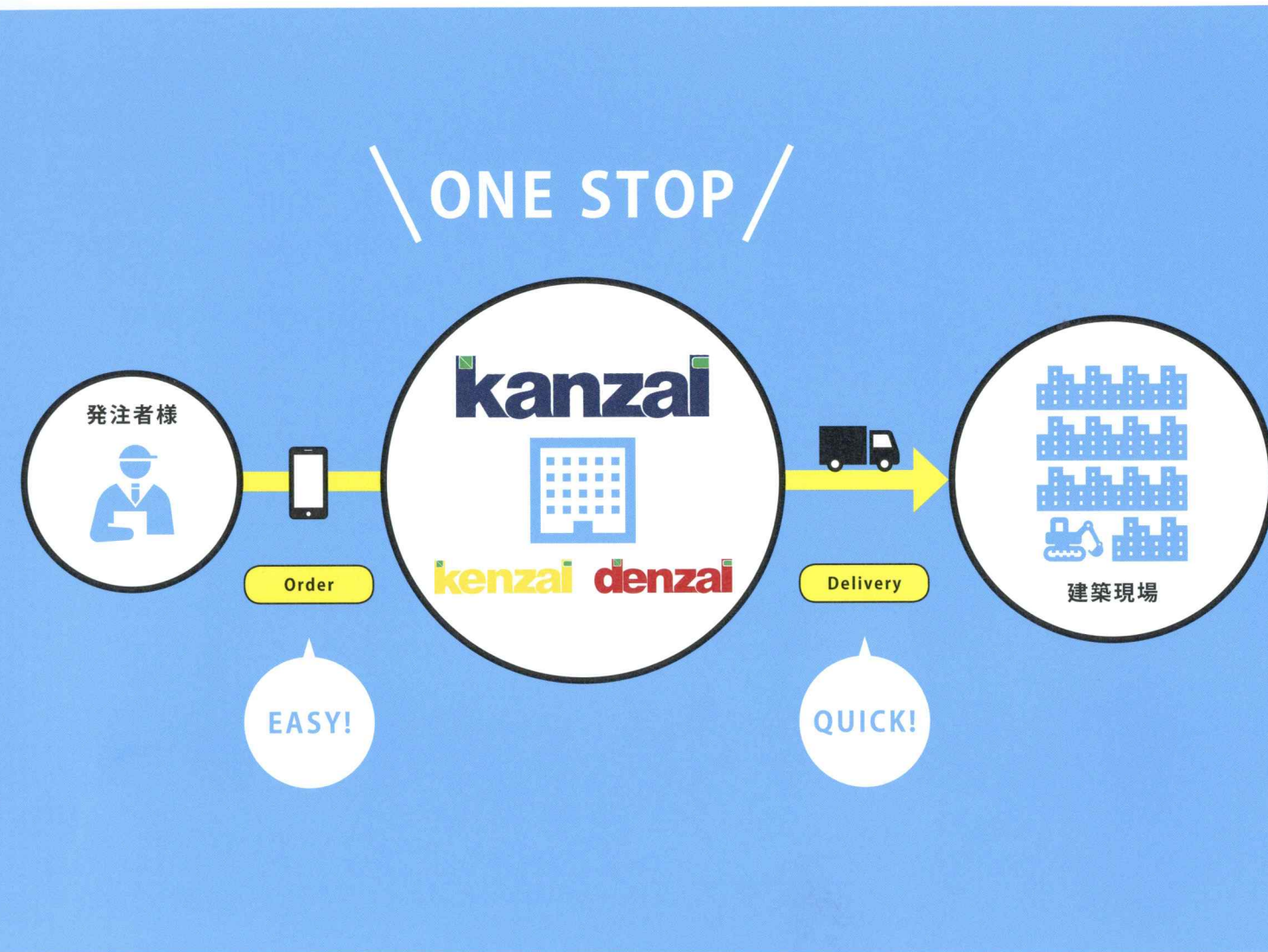
つくる人に最適を。くらす未来に快適を。

代表取締役社長 関根 章人



シンプルであること。

現場に便利であること。



あらゆる建築設備資材が ワンストップで揃う

「中間商社一社主義」を原点に事業展開してきた日本管材センター。その目指すスタイルは、まず「シンプルであること」です。

多様化・複雑化とともに工期短縮、人手不足にも対応しなければならない昨今の建設現場にあって、発注や納材の最適化は非常に重要な命題。数か所への資材発注が1か所に、数社からの搬入が1回になれば、工事全体がスムーズにいくのではないのでしょうか。

当社ではシンプルさを追求するために、配送システム、営業体制、受注システムなど、あらゆる改善と努力を積み重ねてきました。1度の発注で、現場で必要とされる管材、周辺部材のすべてが揃います。

お客様にとって “使い勝手のいい会社”

日本管材センターが理想とするもうひとつのカタチが、エンドユーザーに最も近い存在であること。そのために、「現場に便利であること」を追求してきました。

午前中に足りなくなったものが午後には揃えば便利ははず、揚重のスケジュールや急な工程変更に対応したデリバリーなら現場に喜んでもらえる、現場で加工するものや組み立てるものが、あらかじめ加工され、プレハブ化されていれば作業が早い……。物流の要衝に構える新木場配送センターが、都内23区などの二便体制と午前配送を実現します。

「納材業者に日本管材センターを入れておけば安心」―現場からそんな声が聞こえてくるように、これからもお客様に寄り添っていきます。

kanzaiのポテンシャル

1

現場力

“長らく業界慣習であった複雑な流通体系をシンプルに”
そこから日本管材センターは始まった。だから視点は常にエンドユーザー側にあり、現場側にある。
これこそが、当社の最大の特長かつ存在理由。

受注体制

待たせない・安心できる
担当制の受注対応

お客様1社に対して1人の営業担当と同様に、電話の窓口もお客様ごと。1社に対し専任のチームが対応。取り次ぎなしでダイレクトにつながり、誤配を極力防ぎます。当社に在庫がない場合でも、メーカーと連絡を取り合い直送便を仕立てます。お客様のニーズや状況に応じて、迅速かつ的確な対応を心掛けています。

トータルサポート

多忙な現場の
発注と納品をサポートする
「プロジェクト」

営業担当が現場に密着し、発注と納品の管理をサポート。現場によっては専任スタッフが常駐し、工期に合わせた資材の発注、現場に合わせた荷姿のアレンジ、揚重スケジュールに合わせた納品などを行います。このように資材管理から日々のデリバリーまでをカバーする当社ならではのトータルサポートシステム「プロジェクト」が、多くのお客様から支持されています。

材料+技術+施工サービス

材料調達と工事を
あわせて請け負う
テクニカルサポート

集合住宅やホテルなどの屋内樹脂管工事で、材料調達と工事をあわせて請け負うのが「テクニカルサポート」。多種多様な商品から適切な部材を選定。生材料、プレカット、プレハブ加工の対応はもちろん、独自のノウハウからオリジナルの部材を用意し技術的にサポートします。



kanzaiのポテンシャル

2

納品力

1987年、関東地方の扇の要に位置する新木場に土地を取得。この地を将来の物流の要衝として位置付け、新木場配送センターを開設した。以来、当社の心臓部として、最高のパフォーマンスを発揮し続けている。

トータルデリバリー

物流の要衝に構える
日本管材センターの心臓

関東地方の扇の要に位置する江東区新木場に、7000坪超の敷地を持つ新木場配送センター。100台以上の配送車輛が、毎日1600か所を超える工事現場に配送します。前日16:30までのご注文は翌日配送。東京23区を中心に、午前10:00までのご注文なら当日午後便でお届けします。

ストック

在庫アイテム15000点超
必要なものは何でも揃う

配送センター内に新棟“Depot”がオープン。コンピューター制御による1048パレット収納の機械式パレットスタッカーの導入で、在庫を大幅拡充し、今後もさらなる充実を目指します。管材から周辺部材まで現場で必要とされる様々なものが揃い、ワンストップかつジャストインタイムでの納品が可能。梱包仕様のご相談にもお応えします。

プロセス

ニーズにあわせて
プレハブ納品
TECH LAB常総

グルーピング加工、溶接加工、転造ねじ加工、ねじ切りおよび寸法切りなど、消火設備や空調設備で使われる配管材の加工はTECH LAB常総で。ラボ＝研究所の名のとおり、様々な検証・実験を行い、お客様の高度なニーズにお応えします。





kanzaiのポテンシャル

3

知識力

創業からしばらくは必死に走り続けてきた。しかし、組織を進化させるには教育が不可欠。ここから社内教育が始まり、数々の教育プログラムがkanzai社員たちの頭脳を鍛えてきた。商社はモノは作らない。人を作って武器となす。

商品知識

実務に即した商品知識で
的確な提案

当社スタッフの強みの一つが、実務に即した高度な商品知識。単にご注文を受けるだけでなく、現場の仕様・用途に応じた的確な商品をご提案します。メーカーや型番がわからなくても、お問い合わせ内容から商品を特定し、急なご注文にも対応します。

現場知識

豊富な現場知識に基づく
迅速かつ適切な対応

現場を担当する専任スタッフはもとより、営業スタッフも現場知識に習熟。豊富な知識をベースに、現場の搬入条件、周辺環境などに配慮した、デリバリー管理を実現できることも強みです。また、各々の現場に適した様々な加工やプレハブ納品などの技術的な知識にも精通しており、お客様のよき相談相手となります。

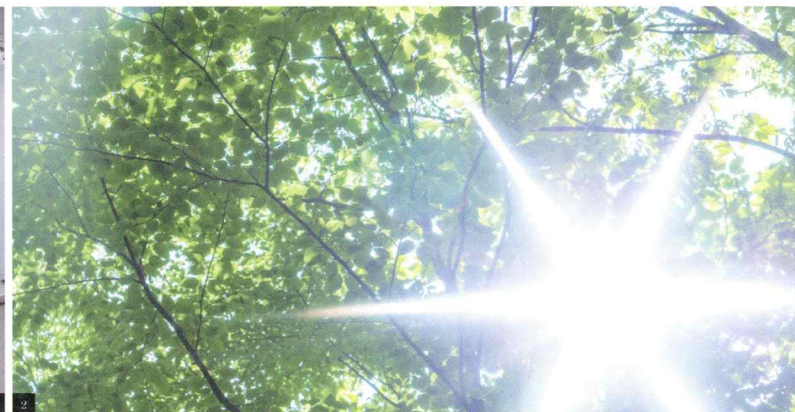
プロフェッショナル

確かな業務知識に
裏付けされた解決力

「わからないことはkanzaiに聞いた方が早い」を目指し、全員が業務知識の向上に努めています。施工の知識、図面の知識、法律の知識など様々な知識を蓄積し、お客様の多様なご要望にお応えできるプロフェッショナルを養成しています。

社会とともに

社員とともに



1 お客様研修支援

新木場配送センターDepotに 研修ルームを設置

新木場配送センターDepotは、お客様の若手社員や関係者の研修の場としても利用できます。研修ルームでの映像によるガイダンスのほか、ショールームではユニットバスやレストルームの機能、パイプと継手の用途・接続方法などを紹介。各種実験コーナーも設けています。

当社の営業担当者も研修を強力にサポート。場内のガイドとして、在庫商品を実際に手に取っていただきながら丁寧に解説します。また、メーカータイプアップ型の研修もアレンジ可能です。年間1000人を超えるご利用があり、好評を博しています。

2 環境への取組み

ISO14001取得と 環境配慮型配送システム

新木場配送センターでは、業界に先駆けて、2000年11月にISO14001を取得。重点的な環境活動としては、梱包資材の減量・再利用・リサイクルに努め、お客様の要請による簡易梱包や通箱での納品のほか、段ボールの引き取りなどにも応じています。また、メーカーの梱包資材や廃棄対象梱包資材の有効活用にも積極的に取り組んでいます。

省エネルギー活動としては、独自の配車システムを構築。積載量や現場周辺の交通事情などをもとに最適な配送ルートを設定し、積載効率を上げるとともに、CO₂排出量削減に寄与しています。

1 従業員教育

60以上のカリキュラムと 資格支援制度

2000年代初頭より社員研修に本格的に注力し、53期現在でカリキュラム数は62まで増加しました。各種建築資材に関する研修のほか、メーカーへの依頼講習なども行っています。ほかにも、図面の見方・与信管理・契約書作成などの業務関係から、ビジネス文書・関連法律まで多彩。すべての研修でレポート提出を課し、知識を定着させています。

また、2級管工事施工管理技術検定試験など、業務に関わる資格取得を支援。取得にかかる費用を会社で負担するほか、報奨金、資格手当なども設けています。

2 社内制度・環境

働きやすさ、生産性を高める 社内制度・環境の整備

労働環境に関する特色としては、生産性を高めるような休暇取得を推奨している点が挙げられます。たとえば、「代休は土日と合わせて長期休暇として取得する」「育児休暇後は時短制度を活用できる」といったものです。有給休暇や育児休暇も十分に活用されています。

福利厚生においては、節目で全社的なイベントなどを開催しています。また、野球部などのスポーツ活動やサークル活動なども活発に行われています。

パートナーとともに (50音順・敬称略)

〈鋼管/ライニング鋼管〉
(株)協成
積水化学工業(株)
日本製鉄(株)
JFEスチール(株)

〈耐火二層管〉
(株)エーアンドエーマテリアル
昭和電工建材(株)
フネアクロス(株)

(株)小島製作所
積水化学工業(株)
日本製鉄(株)
フネアクロス(株)
前澤化成工業(株)

(株)本山製作所
(株)ヨシタケ
ワシノ機器(株)
(株)FMハルバ製作所

(株)ベンカン機工
(株)吉年
(株)リケン
JFE継手(株)

〈ビニールパイプ/継手/マス〉
旭有機材(株)
アロン化成(株)
(株)ヴァンテック
(株)クボタケミックス
積水化学工業(株)
タキロンシーアイ(株)
東栄管機(株)
日本プラスチック工業(株)
前澤化成工業(株)

〈給水・給湯用鋼管/ポリエチレン管/ポリブテン管〉
(株)オンダ製作所
積水化学工業(株)
(株)タブチ
ブリヂストン化工品ジャパン(株)
古河電気工業(株)
前澤給装工業(株)
三井化学産資(株)
三菱ケミカルインフラテック(株)
未来工業(株)

〈バルブ〉
(株)オーケーエム
(株)キッツ
(株)栗本鐵工所
東洋バルブ(株)
巴バルブ(株)
日立金属(株)
三吉バルブ(株)
(株)大和バルブ
Bray International, Inc.

〈管継手〉
淡路マテリア(株)
伊藤鉄工(株)
(株)梅沢製作所
オーエヌ工業(株)
(株)協成
ショーボンドマテリアル(株)
シーケー金属(株)
積水化学工業(株)
ダイドレ(株)
タイヨージョイント(株)
(株)多久製作所
東亜高級継手バルブ製造(株)
(株)永島製作所
(株)ナゴヤ
日本ヴァクトリック(株)
(株)長谷川鋳工所
東尾メック(株)
日立金属(株)

〈フレキシブルジョイント〉
倉敷化工(株)
ゼンシン(株)
大同特殊工業(株)
(株)テクノフレックス
ダイドレ(株)
(株)TOZEN

〈排水金物〉
アンデス産業(株)
伊藤鉄工(株)
カネソウ(株)
(株)小島製作所
第一機材(株)
ダイドレ(株)
(株)中部コーポレーション
(株)長谷川鋳工所
福西鋳物(株)

〈バンドキャップ/通気口〉
(株)深井製作所
協立エアテック(株)
空研工業(株)

(株)シルファー
西邦工業(株)
大建プラスチック(株)
(株)大佐
(株)メルコエアテック
(株)ユニックス

〈メーター/計器類〉
愛知時計電機(株)
アズビル金門(株)
関東計器(株)
(株)タブチ
(株)東京百木製作所
長野計器(株)
日新計器(株)
(株)日邦バルブ
日本フローセル(株)
前澤給装工業(株)
山本計器製造(株)

〈配管支持金物/スリブ材/シール材〉
(株)アカギ
(株)栗本鐵工所
山王工業(株)
(株)昭和コーポレーション
ショーレジン(株)
日栄インテック(株)
日本ヘルメテックス(株)

日本リンクシール(株)
(株)ヘルメテック
北海紙管(株)

〈換気送風機〉
(株)荏原製作所
高須産業(株)
テラル(株)
東芝キャリア(株)
パナソニック(株)
マックス(株)
(株)ミツヤ送風機製作所

〈タンク/浄化槽〉
積水アクアシステム(株)
日立金属(株)
フジクレーン工業(株)
(株)ベルテクノ
三菱ケミカルインフラテック(株)
森永エンジニアリング(株)
森松工業(株)

〈衛生陶器/水栓類〉
(株)カクダイ
河淳(株)
グローエジャパン(株)
SANEI(株)

ジャニス工業(株)
(株)KVK
(株)LIXIL
TOTO(株)

〈ポンプ/送風機〉
(株)荏原製作所
(株)川本製作所
新明和工業(株)
(株)鶴見製作所
テラル(株)
(株)西島製作所
(株)日立産機システム

〈エアコン/ヒートポンプ〉
ダイキン工業(株)
東芝キャリア(株)
パナソニック(株)
日立グローバルソリューションズ(株)
(株)富士通ゼネラル
三菱重工(株)
三菱電機(株)

〈給湯器/ガス機器類〉
(株)コロナ
(株)日本イトミック
日本スティーベル(株)
(株)ノーリツ

バーバス(株)
(株)パロマ
リンナイ(株)

〈住設機器類〉
クリナップ(株)
タカラスタンダード(株)
トクラス(株)
ナスラック(株)
(株)ハウステック
マイセット(株)
TOTO(株)

〈その他機器類〉
旭電業(株)
(株)オーヤラックス
空研工業(株)
下田エコテック(株)
昭和鉄工(株)
新晃工業(株)
暖冷工業(株)
特許機器(株)
(株)巴商会
ドリコ(株)
ネボン(株)
ネミー(株)
ホーコス(株)

〈配管工具/配管機器〉
アサダ(株)
シーケー金属(株)
日本ビルティ(株)
(株)マキタ
マックス(株)
(株)松阪鉄工所
レックス工業(株)

ホシザキ東京(株)
細山熱器(株)
(株)前田鉄工所
(株)マルゼン
三浦工業(株)
矢崎総業(株)
ヤンマー(株)
TOTO(株)

〈消火器具〉
(株)立売製作用
(株)北浦製作所
共成産業(株)
(株)初田製作所
モリタ宮田工業(株)
ヤマトプロテック(株)
(株)横井製作所

■ 管材とkanzaiを知る

■ 「魅せる配送センター」

新木場配送センターDepotの3階には、集合住宅の1室を再現したショールームを設置。通常は目にできない床下や壁裏の配管の様子がわかります。2階通路の一面はガラス張り。1・2階吹き抜け部分から在庫と作業の様子が見学できます。

■ その場で注文・決済・引き取り

■ 便利な「kanzai net」

新木場配送センターDepotのエントランスには、「kanzai net」の専用端末を設置。会員登録後、簡単な画面操作で、商品のご注文からクレジットカード決済、商品のお引き取りまで、その場でスムーズに完了します。



company profile

商号 日本管材センター株式会社 NIPPON KANZAI CENTER CO., LTD.
 所在地 〒104-8401 東京都中央区八丁堀2丁目24番3号 PMOビル
 TEL 03-5541-5111(大代表) FAX:03-5541-5115
 資本金 5億円
 代表者 代表取締役社長 関根章人
 社員数 444人(2018年3月末現在)
 決算期 3月31日
 事業内容 管工機材、住宅、ビル設備機器、プラント機材、配管システム全般の国内販売及び輸出入を営む専門商社
 売上高 2014年3月期448億円 2015年3月期456億円 2016年3月期470億円
 2017年3月期478億円 2018年3月期517億円
 事業所 本社/東京都中央区八丁堀
 海外支店/DUBAI OFFICE
 現地法人/VINA KANZAI CO., LTD. 新木場配送センター/東京都江東区新木場
 TECH LAB常総/茨城県常総市
 主要取引銀行 みずほ銀行築地支店、三菱UFJ銀行門前仲町支店、商工中金本店
 三井住友銀行日本橋東支店、横浜銀行東京支店

- 1967年 1月 配管機材類の販売を目的として資本金100万円にて、東京都中央区湊町1丁目11番に設立。社名を日本管材センター株式会社とする。
- 1971年 5月 東京都江東区塩浜1丁目3番21号に本社を移転、並びに配送センターを新設。
- 1976年 7月 資本金を1億円に増資。
- 1982年 1月 本社を東京都中央区日本橋兜町12番1号に移転。
- 1987年 1月 資本金を2億円に増資。
- 1987年 9月 東京都江東区新木場3丁目2番4号に新木場配送センターを新設。
- 1991年 5月 上海駐在員事務所を開設。
- 1991年 12月 資本金を3億5000万円に増資。
- 1992年 9月 資本金を5億円に増資。
- 1994年 10月 本社を東京都中央区築地4丁目1番1号に移転。
- 1999年 8月 上海駐在員事務所を現地法人化。管材(上海)国際貿易有限公司【KANZAI(SHANGHAI)CO.,LTD.】
- 1999年 12月 本社を東京都中央区八丁堀2丁目23番1号に移転。
- 2000年 11月 新木場配送センターを増改築し、名称を【KANZAI LOGISTICS Shinkiba】に変更。新木場配送センターがISO14001を認証取得。
- 2007年 5月 ドバイ支店【DUBAI OFFICE】開設。
- 2010年 7月 本社を東京都中央区八丁堀2丁目24番3号に移転。
- 2015年 1月 ベトナム現地法人【VINA KANZAI CO.,LTD.】設立。
- 2015年 12月 TECH LAB常総を開設。
- 2016年 4月 新木場配送センターDepotを新設。
- 2017年 2月 kanzai netの運用を開始。

kanzai
Shinkiba SHOWROOM

日本管材センターは、埼玉西武ライオンズのオフィシャルスポンサーです。



www.kanzai.co.jp

主要取引先 (50音順・敬称略)

〈建築〉

株式会社大林組
 鹿島建設株式会社
 清水建設株式会社
 大成建設株式会社
 株式会社竹中工務店
 株式会社長谷工コーポレーション

〈建築設備〉

株式会社朝日工業社
 旭シロテック株式会社
 エルゴテック株式会社
 大橋エアシステム株式会社
 オーク設備工業株式会社
 川崎設備工業株式会社
 川本工業株式会社
 株式会社関電工

株式会社九電工
 経塚工業株式会社
 株式会社きんでん
 株式会社クリマテック
 畜久工業株式会社
 櫻井工業株式会社
 三機工業株式会社
 三建設備工業株式会社
 株式会社三晃空調
 芝工業株式会社
 新日本空調株式会社
 新菱冷熱工業株式会社
 須賀工業株式会社
 株式会社セントラルユニ
 第一工業株式会社
 第一設備工業株式会社

株式会社大気社
 大成温調株式会社
 大成設備株式会社
 ダイダン株式会社
 株式会社太平エンジニアリング
 高砂熱学工業株式会社
 株式会社竹村コーポレーション
 株式会社テクノ菱和
 東芝プラントシステム株式会社
 東洋エンジニアリング株式会社
 東洋熱工業株式会社
 株式会社トーエネック
 西日本ニチモウ株式会社
 株式会社西原衛生工業所
 ニッタン株式会社
 日本ドライケミカル株式会社

日本ファシリオ株式会社
 能美防災株式会社
 株式会社日立製作所
 株式会社日立プラントサービス
 日比谷総合設備株式会社
 藤田エンジニアリング株式会社
 不二熱学工業株式会社
 富士古河E&C株式会社
 ホーチキ株式会社
 三谷産業株式会社
 モリタ富田工業株式会社
 株式会社ヤマト
 ヤマトプロテック株式会社
 菱和設備株式会社
 JFEエンジニアリング株式会社
 株式会社REC ほか

kanzai